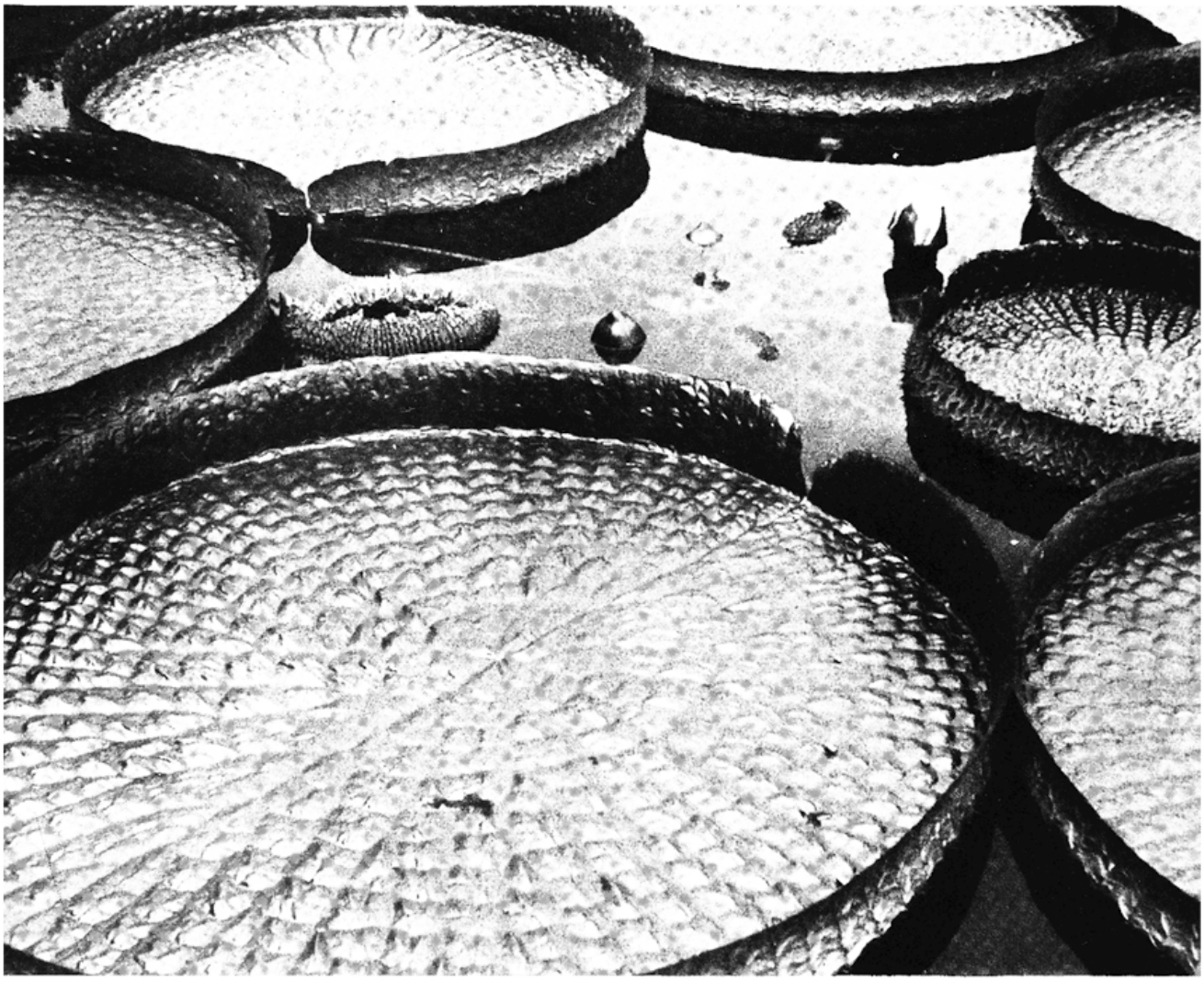
愛知の博物館

1974年　No. 20



愛知県博物館協会

目　　次

名古屋市博物館（仮称）概要……1

「作る」、「見せる」、「聞く」　三輪　克……2

新城博物館の構想と反省　　大原紋三郎……3

昭和48年度事業報告……6

昭和48年度決算書……7

昭和49年度事業計画（案）……8

昭和49年度予算（案）……9

名古屋市博物館完成予想図

名古屋市博物館（仮称）概要

建設場所	名古屋市瑞穂通１－２７（旧市立大学病院跡地）
敷地面積	１３,１１２.８０㎡
構造	鉄筋鉄骨コンクリート造地上４階地下２階建
建築延面積	１８,１０７.８９㎡（食堂棟を含まず）
建築面積	３,５０８.７４㎡
着工	昭和４８年１２月
竣工予定	昭和５１年　３月
開館予定	昭和５１年
建設趣旨	名古屋地方を中心とする地域の歴史・民俗資料の収集・保存・調査・研究・展示活動を行なう機関として設置される歴史博物館である。その目的は、名古屋市民はもとより、この地方の人達が自らの生活する地域の歴史について学習・研究できる場を提供するとともに、内外のすぐれた文化遺産の紹介、資料の保存・研究活動を通じて、学術及び文化の発展に寄与することである。

寄贈・寄託をおねがいします

博物館で保存・展示する資料は、みなさんから寄贈していただくか、寄託していただきたいと願っています。寄贈・寄託していただいた資料は、名古屋市が責任をもって保管します。寄贈・寄託してくださる方には、お礼状・記念品をさしあげますとともに、ご芳名を永く記録にとどめて感謝の意をあらわしたいと考えています。

（注）　寄託とは、資料の所有権はそのまま本人にあり、現物は市が長い期間にわたってお預りすることです。

ご連絡は博物館建設準備係まで

資料をおもちの方や所在をご存知の方は、名古屋市教育委員会博物館建設準備係に、どうかご連絡ください。

係の専門調査員が参上します。

連絡先　名古屋市中区三の丸三丁目１の１　〒４６０
名古屋市教育委員会文化課
博物館建設準備係
電話（052）961－1111（内）3093

「作る」、「見せる」、「聞く」

三輪　克

私の勤務している市立名古屋科学館を含めて科学博物館（欧米でいうところのScience museum）では、大多数のところで展示品は、収集するというよりは、新たに製作されたものである。特に最近設立された館では、全部の展示品を、その目的にそって製作するところが多い。このように、展示品製作は科学博物館の機能において主要な位置を占めることになる。

展示品を作るために、各館はさまざまな方法をとっている。設計から製作まで自館で行うところ、設計だけで製作は館外で行うところ、設計から製作まで館外に注文するところなどがある。

いずれにしても、何をどのように見せるかという目的が明確になっていなければならない。例を名古屋科学館にとれば、「作る」ということのために、展示部会とでも名づけられる一種のプロジェクトチームを編成し、あらゆる角度から検討を加え展示計画を作成している。

また、展示品は目的がはっきりすれば、直ちに実現するものでもない。「作る」ということは技術を伴わなければならないことである。特に可動展示品であれば、使用ひん度に応じた耐久性や見学者に対する安全性、コストなど多くの条件を満足させる必要がある。したがって、展示品製作つまり「作る」ということは、線型計画法の応用でもある。

「作る」ということは、コンピュータの用語でいえばハードウエアに属することである。ハードウエアがあれば、当然にソフトウエアが考えられなければならない。それが「見せる」ということである。

同じ展示品でも見る人の年令、職業、性別、学歴により、見方、受取り方は千差万別である。もちろん、展示計画では、どのように「見せる」かについて一定のパターンを想定はしている。しかし、従来の経験からいって予想外の見方とらえ方をされることも少なくない。たとえば、低年令層では展示品そのものの内容ではなく、むしろディスプレイの斬新さ奇技さであり、光や音による刺激に興味をそそられることが多い。また一定の知識、理解力のある人々であれば、展示品の内容でありユニークさである。したがって「見せる」というソフトウエアについては、プランナーの意図以上に発展する可能性が多い。

さて、これらの可能性に対してプランナーは、全く成行きにまかせておけば良いのだろうか、否、科学博物館のような開かれた博物館、すなわち見学者との活発なコミュニケーションを求められる博物館では、これらの可能性を積極的に取入、利用すべきことはいうまでもない。そのためには、見学者の反応を調査し意見を聞くことが必要かつ充分行われなければならない。そこで「作る」、「見せる」に続いて「聞く」ということが必要になる。

「聞く」ということは「作る」というハードウエアを、また「見せる」というソフトウエアをより完成されたものに近づけるため欠くことのできないフィードバック機能である。もちろん、フィードバック機能を持たせるといっても、全てのものを無差別にフィードバックするのではなく、種々雑多な反応から有意なものを取出すために、ある種の選択が行われなければならない。すなわち情報技術方面でいうところの適切なフィルターが要求される。

従来、「聞く」ために各種のアンケート調査が行われてきたが、1，2の例を除いて、真に意味があり信頼性の高い調査は博物館関係ではなされていないようである。それは、調査票の設計から始まりデータの処理にいたるまで学問的根拠に基づくことが少なく経験的に行われることが多いためではなかろうか。

以上、とりとめのないことを書いたが、開かれた博物館として備えなければならない条件の一つであるフィードバック機能こそが、博物館で未だ充分に発達していない機能であり、博物館学で取上げる分野の一つにならなければと考えている。

＜市立名古屋科学館学芸員＞

新城博物館の構想と反省

大　原　紋　三　郎

私は新城にも、ぜひ市立の郷土博物館（あるいは郷土資料館という名称でもよい———以下同じ）をつくりたいと思って、長い間計画し、準備し、実現に熱意を傾けてきたものであるが、この頃は、その設立に対して強く反省させられている。そこで私の今までの抱負と現在の心境を述べて、博物館に関心を持って居られる各位の御参考に供したいと思うものである。

1. 新城博物館の基本的構想

建　　物

本館と民俗資料館の二棟とする。本館は鉄筋又は鉄骨二階建、少なくもノベ百坪以上で歴史資料展示室、特別展示室、収蔵庫、その他事務室、会議室などに分かれる。また民俗資料館は木造平屋建、一室三十坪程度のもの、四室が一列に列び、これが廊下で結ばれる、つまり学校の校舎のようなものである。

歴史資料展示室

市内各地から発掘して現在、各学校などに分散保存されている縄文、弥生、古墳時代の出土品。また市内に分散している検地帳、年貢割付、皆済目録、名寄帳、五人組帳、村差出明細帳、絵図などの古文書、古記録の類を主とした歴史関係の資料を展示する。

そしてまた新城の成立と経過、例えば築城当時の新城、市街と道路の変遷、川船や中馬の輸送状況、城下町の繁昌、文化芸能の隆替など新城の歴史を、実物の資料やパネル等を交えて、パノラマ式に見られるような設備をつくる、これには文化財専門委員会、郷土研究会などの御協力をお願いしたいと考えている。

民俗資料展示室

前記の約三十坪ほどの四つの室は、

第一室、商家、商業の室。室の片方に商店の店舗を模造して、のれん、框、戸棚、抽出、看板、帳場、火鉢、銭箱などを配置し、他の一方に営業用品や商業関係の資料を列べる。

第二室、農家、農業の室。室の片方に農家の土間、おえ、勝手などを模造し、農家の生活用具、および鋤、鍬、簑笠などの農具類を配置し、他の一方に其他の農業関係のものを列べる。

第三室、人の一生展示室。出産、初着、初詣で、玩具、誕生、七五三、就学、就職、結婚、厄年、賀の祝、死亡、葬式などに関する資料を順序よく配列する。

第四室、年中行事展示室。正月飾り、門松、羽子板双六、雑煮祝、初詣で、二月初午、節分、三月雛の節句、四月花祭り、五月端午節句、祇園会、盆行事、お月見、エビス講、歳末、煤払いなどに関する資料を順序よく配列する。

収　蔵　庫

独立したものが理想であるが、この際は前期本館の一部を収蔵庫に充当して出土品、文書記録その他を収蔵し、時々展示替えに供する。

特別展示室

市所有の資料は現在、非常に少ない。また新しく購入する予算も少なかろうし、一般から寄贈を受けても保存すべき収蔵庫も小さい。そこで特別展示室を用意し、個人、団体などの所有する資料を借用して、大体一ケ月に一回くらいの割で展示替えをする。

例えば鉈屋保管の能衣裳、能面。三原屋所有の薬業資料。平田氏などの所有する太田白雪自筆本や

関係資料。各神社の棟札や社宝。寺院の仏像、什物。茶の湯、生花の道具や資料。桜渕関係の文書や植物など。菅沼家、安部家関係の資料、設楽原決戦関係資料、丸山琴所展、大阪圭吉展などなど。

長篠の城跡、鳳来寺山の自然、田原の渡辺華山、伊良湖の海洋博のように独特のものを持っている博物館なら強味があるが、新城の場合は精々「城下町新城」を強調する程度のものである。そこで私はこの特別展に力を入れ、毎月陳列替えを行い、趣向をこらし、新味を盛りこみ「来月は何が陳列されるかな」などと、興味と期待をもって、見てもらう様に計画をねってゆくつもりである。

所 要 人 員

圓満な博物館活動をする場合、最少限三人を必要とする。即ち技術係、教育係、事務係である。

技術係は蒐集、保管、整頓、展示、パネル作製、設備カード作製など。

教育係は学術関係の研究、調査、指導説明、質疑応答など。

事務係は庶務、会計、帳簿、統計、報告、連絡、広告宣伝など。

その他受付、掃除、警備、雑用など兼任でいく。

2. 新城博物館への反省

御承知のとおり私は去る昭和四十三年十月、貧弱なものではあるが大原薬業資料館をつくった。これを市に寄付して新城に市立郷土博物館をつくる「もと」にしたいと考えたものである。

その後、博物館設立について市当局（市長、議会、教育長など）に働きかけ、一時は予算化されそうな気配にもなったが、結局不発に終ってしまった。

一方、新聞などで報道のとおり、市議会の文教委員会の正副委員長が民俗資料館設立を市長や教育長に申入れたり、市議会自民党議員団が民俗資料館の早期設置を予算編成に要望したり、市の定例議会で加藤議員が文化財保存館建設について市長に質問したりした。また文化財専門委員会でも議題にのせて検討したり、基本構想や設計図を書いて提出したりしたが、事態は一向に進展しないまま満五ケ年を経過した。

博物館の必要性は資料保存、社会教育、文化向上などの見地からも、誰もが容易に認めるところであるが、唯ムツカシイのは建物新築の資金である。

近い所では北設の田口、東栄、また岡崎などに立派な郷土資料館が出来ているが、これらは学校、公民館などの旧建物を活用したものである。また最近仮オープンした宝飯郡一宮町、近く設置に着手する作手村などは共に町村役場の庁舎新築によって、不用となった旧庁舎を利用するものである。

このような建物を持っている市町村はまことに羨しい限りである。新城でもこのような利用できる建物があれば、必ず既に出来ていたことと私は思っている。

また蒲郡では一億円くらいの予算で博物館をつくる計画があるときくが、この様な裕福な都市の真似は出来ない。

いま前述の構想に述べたような建物、即ち鉄筋又は鉄骨二階建１００坪と、木造平屋建１５０坪を新築するとすれば建築費高騰の折柄、数千万円を要することと思われる。

市では現在、あまり潤沢とも思えない財源をもって、意欲的に幾多の事業に取組んでいる様子である。この様な財政状態の中で博物館の建築に数千万円を割いたり、年間の人件費その他関係経費に二百万、三百万と計上することは、果して適当か否かと私は考えるようになった。

いくら陳情しても要望しても、一定の財源で予算編成となれば博物館より、まだまだ緊急な、優先すべき事業が沢山あることであろう。新城市民憲章に云う、教養をふかめ、かおり高い文化の町つくりに確実に貢献できる博物館ではあるがこの際致し方ないものである。

本年、日本博物館協会主催の金沢市での研修会に参加した時、大きな都市の立派な博物館が、見学者が案外少なかったり、助成金や経費を削減されて不自由しているという話をきいた。

新城でもせっかく設立しても見学者が少なくて無用の長物と非難をうけたり、予算を削られて何も仕事が出来なくなったりしては大変である。私はだんだん消極的にそして非観的になってきた。

価値ある博物館

大体、博物館とは歴史、芸術、民俗、産業、自然科学などに関する資料を広く収集し、保管し、組織的に陳列し、教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供する機関で（物を通じての教育）教養、研究、レクリエーションの場である。

初歩的なことであるが、古い珍しい物をケースに列べておけばよい、先祖の使い残した物を単に保存しておけばよい、一度陳列したらいつまでも其のままでよいなど、思ったら大間違いである。

また館の特色をもたねば意義がない。新城博物館では何を見、何を学ばせるべきかを考え、新城でなければ見られない物を展示することが肝要である。

また仮りに展示品は貧弱でも、展示の方法が勝れているとか、充分な説明カードがついているとか、質問すれば納得のいくまで説明が得られるとか、楽しく見られる配慮が行届いているなどの特徴があれば、これもまた優秀な博物館として価値を認められるべきである。

博物館と私

さて新城で、そこらから民具（民俗資料）を集めてきて、これを陳列し、説明者もなく、ただ自由に入って見て行く程度の民俗資料館なら運営は簡単であるが、私の考えているのはそんな幼稚なものではない。少なくも前述の歴史資料展示室や特別展示室の構想をもった、価値のある資料館でなくてはならない。

しかし私は、結局このような博物館の設立は新城では、当分の間まず絶望と断定するに至った。思えばこの五ケ年間、私は博物館の実現を夢みて、憑かれた様に熱中したものであった。

東三河、愛知県、日本、各博物館協会に加入し、また法政大学博物館研究会、横浜の博物館問題研究会などに入り、機関誌や関係書類を読んだり、各種の会合研修会などにも出席して知識を身につけ、集めた文献、資料、参考品などは大箱に何杯にもなっている。

県下の博物館三十数ケ所は無論のこと、新潟佐渡、富山金沢から九州方面まで随分各地の博物館を見学し、見聞を広くしてきたものである。また博物館学芸員の資格をとろうなどと考えて、法政大学（通信課程）文学部史学科へ入学したが、これは語学などで、とてもついてゆけず三年でやめてしまった。

大原薬業資料館

大原薬業資料館も、この五年間、年中無休、入場無料で、見学の方には熱心に説明をしてきたつもりである。展示の道具や書物なども手にとって見てもらい、質問などにも充分お答えして、一応満足を得られたと確信している。中には随分遠方から来られた方や、薬業関係者など団体で多人数のこともあった。

然し何といっても建物が私の屋敷内にあって独立しておらず、専属の案内人がおる訳でなく、不意に或は断続的に来られる見学の方に対し、その度に急遽、私や家族の者が説明に立つという中途半端なものであって、奇特なことだとか物好きだとか、いゝ道楽だなどと云われてもきたが、も早や、何とか考えなければならない段階に至った。

もともと建物は自宅の土蔵を改造したもの、展示品は全部、私方伝来の薬業資料で、設立から維持運営いっさい、自費自力であって、どなたからも金銭的、物質的援助を受けたものでないので、どの様に変更しようと、処分しようとこの点は全く自由で気楽である。つきましてはこれまでお寄せいただいた多くの方の精神的援助、御好意に対し、改めて厚く御礼を申上ぐるものである。

＜大原薬業資料館＞

昭和４８年度事業報告

1. 研修会の実施

(1) 日　　時　　昭和４８年９月１３日（木）～１４日（金）

会　　場　　東栄町御園天文台

研究議題　　「展示品はいかにあるべきか、どんなものが望ましいか？　製作の要点は？」等について

○東海地区科学施設協議会研究会と共催

(2) 日　　時　　昭和４８年１２月１４日（金）

会　　場　　愛知図書館視聴覚室

講　　義　　「学芸員養成研修会」

ア.「博物館学」　　日本モンキーセンター附属博物館
学芸部長　　広　瀬　　鎮

イ.「教育原理」　　市立名古屋科学館
学 芸 員　　滝　本　正　二

ウ.「社会教育概論」　　名古屋大学教育学部
教　　授　　小　堀　　勉

参 加 者　　９館外　２９名

2. 印刷物の配布

(1) 愛知県博物館・史跡地図

県下の中・高校に配布

(2) 機関誌の発行

「東西南北」　№６８～№７９

「愛知の博物館」　№２０

(3) そ の 他

名古屋タイムズ社（昭和４８年１１月２９日付）にて、愛知の博物館として愛知県博物館協会加盟館２９館を紹介掲載しました。

3. 「文化財探勝の会」実施

日　　時　　昭和４９年３月１０日（日）

探勝経路　　(1)常滑市　常滑市立陶芸研究所――(2)美浜町　野間大坊――(3)南知多町――岩屋寺――(4)南知多町　貝がら公園

参 加 者　　名古屋市内小・中・高校教員　外　　３８名

4. そ の 他

総　　会　　昭和４８年５月２９日（火）

理 事 会　　昭和４８年９月２１日（金）

昭和48年度決算書

愛知県博物館協会

収入の部

費目	予算額	決算額	差引過不足	摘要
会費	41,000円	41,000円	0円	29館
県費助成金	300,000	300,000	0	
加盟館負担金	87,000	18,300	△ 68,700	
参加者負担金	24,000	31,500	7,500	研修会　500円×27名 文化財探勝会　500円×36名
雑収入	10,022	2,992	△ 7,030	預金利子
繰越金	8,978	8,978	0	前年度からの繰越金
計	471,000	402,770	△ 68,230	

支出の部

費目	予算額	決算額	差引残額	摘要
研修会費	16,000円	13,950円	2,050円	1回
印刷製本費	296,400	291,950	4,450	愛知県博物館・史跡地図　1,500×140円 「東西南北」№68～№79　「愛知の博物館」№20　200×340円
「文化財探勝会」費	70,000	60,120	9,880	
会議費	30,900	2,300	28,600	総会　1回 理事会　1回
事務費	34,000	15,405	18,595	郵送料 旅費等
負担金	10,000	10,000	0	東海博負担金
予備費	13,700	0	13,700	
計	471,000	393,725	77,275	

差引残額　9,045円は49年度へ繰越

昭和49年度事業計画(案)

1. 研修会の実施　年2回

博物館関係施設に勤務する職員を対象に行なう研修

2. 印刷物の配布

ア　機関誌の発行

「東西南北」　月1回

「愛知の博物館」　年1回

イ　PR用印刷物の作成

3. 「文化財探勝の会」実施　年1回

教職員を対象にし、県の文化財めぐりを行なう。

4. その他

総会を年1回、理事会を年2回程度行なう。

昭和49年度予算(案)

収入の部

費目	予算額	摘要
会費	40,000円	28館40口　2,000円×9館　4,000円×1館 1,000円×18館
県費助成金	300,000	
加盟館負担金	28,000	1,000円×28館
参加者負担金	30,000	研修会　500円×10名×2回 文化財探勝会　500円×40名
雑収入	3,000	預金利子等
繰越金	9,045	
計	410,045	

支出の部

費目	予算額	摘要
研修会費	30,000円	講師謝金　10,000円×2回 食糧費　500円×10名×2回
印刷製本費	199,000	「東西南北」　2,000円×12回 「愛知の博物館」　60,000円 PR用印刷物　115,000円
「文化財探勝会」費	85,000	借料　50,000円　食糧費　500円×50名 雑費　10,000円
会議費	32,500	総会費　500円×25名 理事会費　500円×10名×2回 理事会出席者旅費　5,000円×2回
事務費	35,875	消耗品費　5,000円　旅費　20,000円 通信費　25円×29通×15回
負担金	10,000	東海博負担金
予備費	17,670	
計	410,045	

表紙カット

パラグアイオニバス

南米には子供が葉の上にのり、水遊びができるほど巨大になるオオオニバスがある。

植物園では毎年夏に栽培しているが、昨年は、例年になく大きくなり葉の直径1.65米の日本新記録をだし、テレビ・新聞などで報道され人気を独占した。

花は、夜咲で第一夜は純白、第二夜は桃色となり、その後水没する。

（東山総合公園事務局動植物園）

「愛知の博物館」No.20

発行日　1974年 3月

発行者　愛知県博物館協会

名古屋市東区久屋町8－8

愛知県文化会館内（電052－971－5511）

編集者　愛知県博物館協会事務局